

第二話 「お店でしか、売りません。」

ちよつと高飛車なようですが……。でも、クルミドコーヒートラしく本を届けるためには、やっぱりそうしたいなど。お店でも通常、キツメンとホールのスタッフを分けられないようにしています。つくる人が届けるから熱が伝わり、届ける人がつくるから気持ちを進められるように思うからです。それにクルミド出版の本は、パッケージ化され、完結した形で存在するというよりも、お店とともに、お店の文脈とともに存在する本になっていくと思いますので、できることなら、お店とともに出会っていただきたいなとも思うからです。

お店を知ってくださいている方が本を読むと「ああ、やっぱりね」と感じ、本を通じてお店を知ってくださいた方が、実際に訪ねてくださいたときには「ああ、そういうことね」と思ってくださいさる。お店と本とで2倍楽しめる。行ったり来たりできる。そういう関係に育っていったらいいなと期待しています。



(影山 知明)